

フューチャー・デザインと 住民協働でつくる総合計画

2020.11.3 (火)

岩手県矢巾町企画財政課

課長補佐 高橋雅明

1. 矢巾町について



YAHABA TOWN



岩手医科大学と附属病院が移転

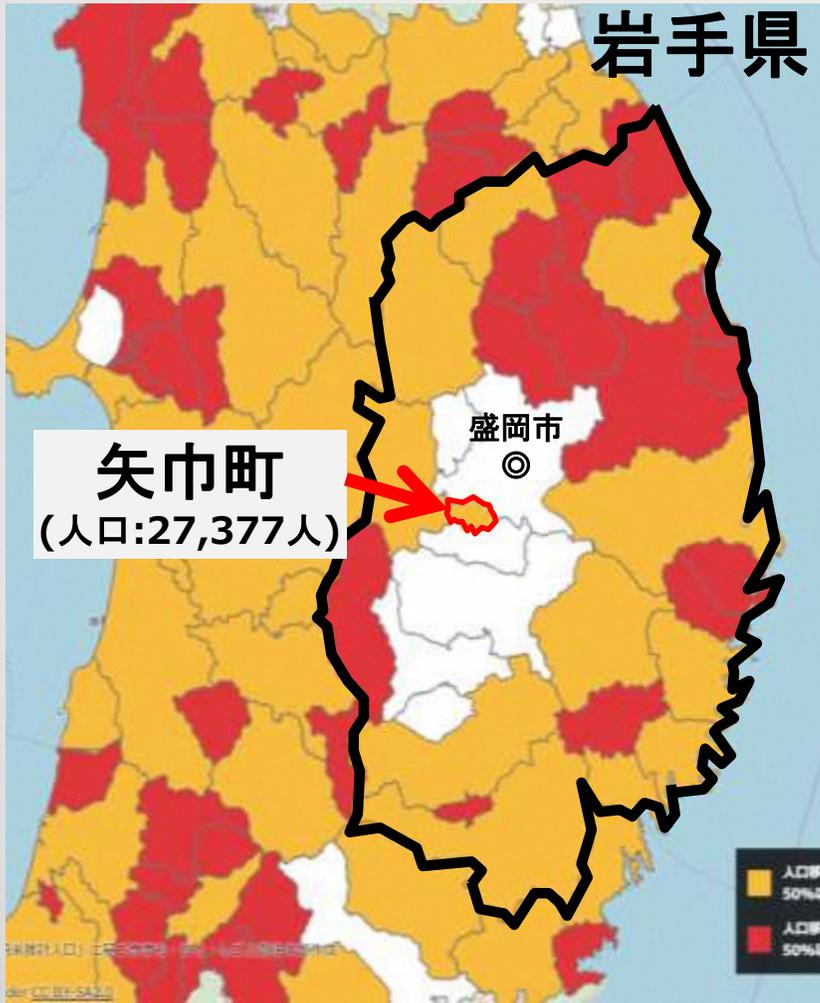


都市基盤が整備された矢幅駅周辺



田園風景が広がる豊かな自然

矢巾町の概要



● コンパクトな田園都市

岩手県の中央部に位置し、面積は67.32km²。県庁所在地・盛岡市の南に隣接し、都市と農村がほどよく調和した田園都市です。

● 交通の要所

国道4号線、東北自動車道、JR東北本線が南北を貫き、平成30年には東北自動車道矢巾スマートインターチェンジが供用開始となりました。

● 北東北の流通拠点

岩手産業流通センターが立地し、北東北の流通の拠点となっています。

● 学園地域と県内医療の拠点

町内に岩手医科大学や岩手産業技術短期大学校、県立不来方高校が立地している学園都市です。また令和元年9月には、県内の最大医療拠点である岩手医科大学附属病院が移転し、交流人口が増加傾向にあります。

● 健康日本一を目指すまち

町内には岩手医科大学附属病院をはじめ、医療・福祉関係の施設が充実しています。また健康づくりに力を入れており、岩手県内での長寿率はトップクラスです。

矢巾町の概要

◆人口 27,152人 (10/1時点)

◆面積 67.32km²

◆財政 101億7,610万円 (R2一般会計予算)

◆特産品 もち米、シイタケ、リンゴ、ズッキーニなど



矢巾町長 高橋昌造

2. 事例紹介

フューチャー・デザインを活用した
矢巾町総合計画の策定

(1) 総合計画とは

総合計画とは

- 自治体のすべての計画の基本となる、行政運営の総合的な指針となる計画。
- 2010年度まで、全市町村に総合計画（基本構想）の策定が義務付けられていた。
- 現在は策定義務はないが、矢巾町では議会の議決を経て定める最上位計画である。

◆基本構想

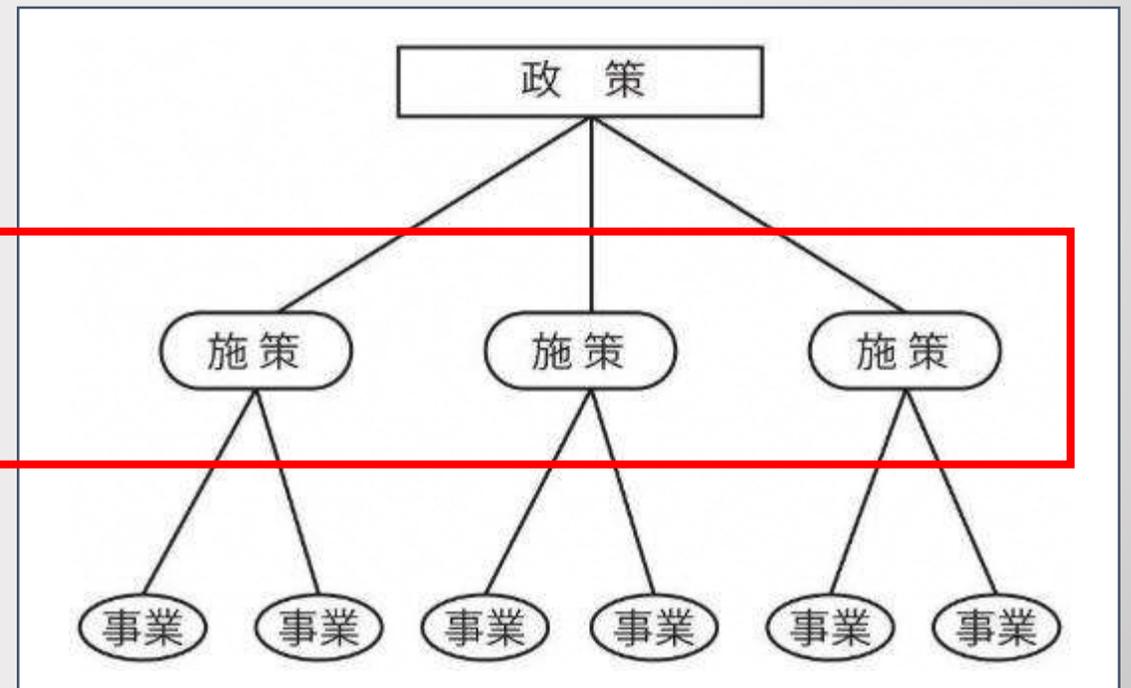
自治体の目指す将来像や目標を明らかにし、実現に向けた施策の大綱を示すもの。

◆基本計画

基本構想の実現のために必要な施策を体系的に明らかにするもの。

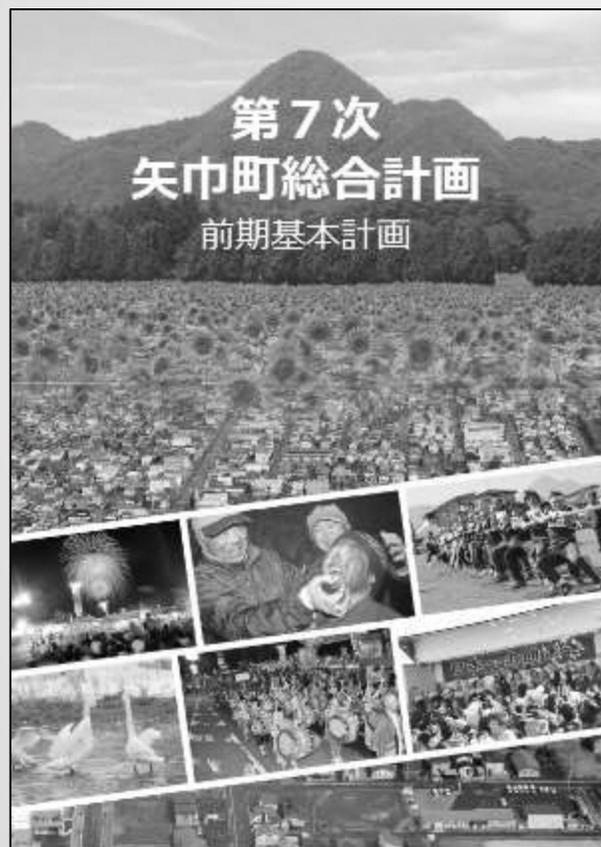
◆実施計画

基本計画の施策に基づき行う事業の内容や時期を明らかにするもの。



第7次矢巾町総合計画 前期基本計画（2016～2019）

〔表紙〕



〔本編（例）〕

第1章 暮らしを大切にしよう

第2項 医療体制の充実

◎ 現況と課題

本町は徳島広域医療圏に属し、医療機関が充実された地域にあります。現在、徳島の単独医療圏を確保する徳島市医師会の協力のもと、乳幼児から高齢者に至るまで各層の保健、予防接種等の事業が円滑に実施されています。

一次救急及び二次救急医療においては、救急診療所及び休日診療所を設け、徳島広域市町村で、小児救急医療の確保と救急における輸送等の運営機能を担い、医療の確保に努めています。また、三次救急は市医師会と徳島市医師会により、高度医療の提供体制が確保されている状況にあります。しかし、徳島広域医療圏は、県内の医療機関から高度な医療を求められることや、医師不足、さらに夜間や休日救急の応援体制の課題もあり、医師への負担は大きくなっています。

また、感染症対策を推進していくため、必要な予防接種をより安全に受けられる環境が求められており、保護者や医師会と連携しやすい関係づくりと接種しやすい体制整備が必要です。

さらに、地域医療を支える臨床研修を促進センターと連携して実施していますが、安定した医療のために、協力者の確保が一層求められています。

第1章 暮らしを大切にしよう

◎ 施策の方向

①安心して医療が受けられる環境づくり
徳島広域医療圏を構成する医師会及び各市町、関係機関と連携し、ニーズに対応した医療体制の確保を図るとともに、かかりつけ医の定着に向けた広報活動に努めます。

②疾病予防の強化
安全に予防接種を受けられる体制の充実を図るとともに、定期予防接種の接種率向上に向けた取り組みを推進します。また、住民の献血に対する理解を深め、協力者の増強に努めます。

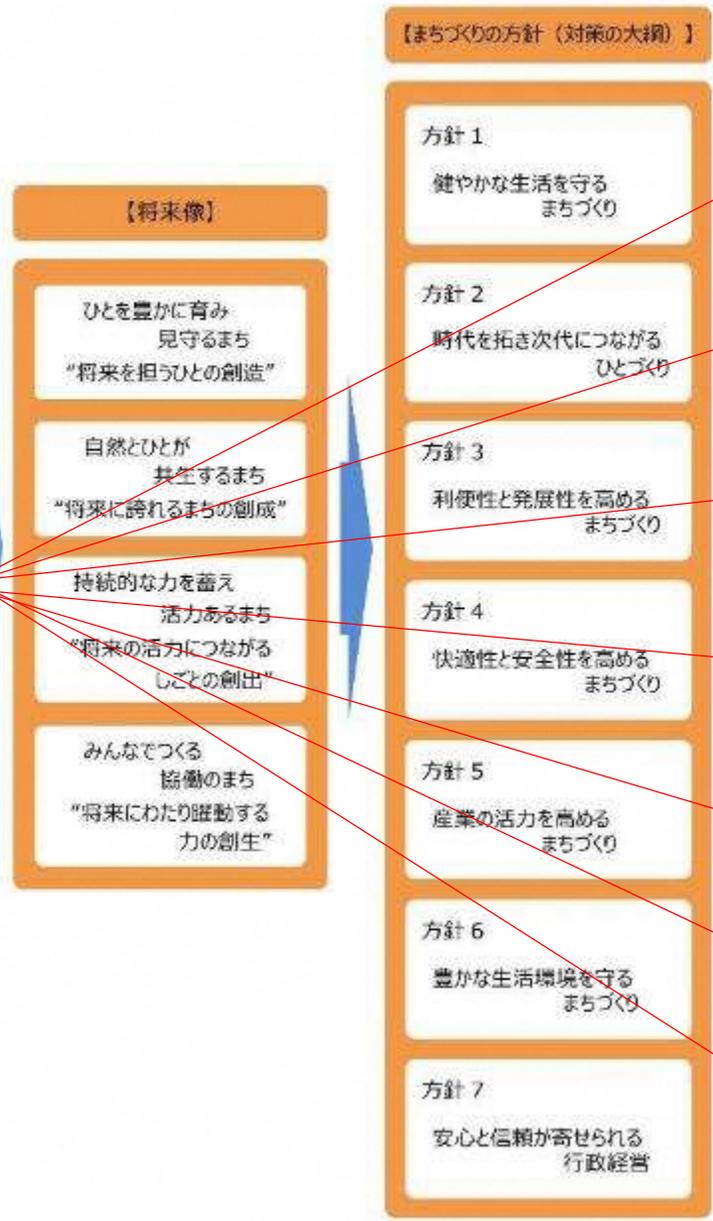
◎ まちづくりの指標

指標	現状値 〔平成27年度〕	目標値 〔平成31年度〕	備考
救急医療機関利用負担人数	4,994人	5,300人	現計画H26年度

指標	現状値 〔平成27年度〕	目標値 〔平成31年度〕	備考
予防接種接種率			
乳幼児（0歳～1歳未満1期）	94.0%	97.0%	現計画H26年度
高齢者（インフルエンザ）	55.2%	60.0%	

第7次矢巾町総合計画の体系図

基本理念
『希望と誇り
基本理念
動するまち
やはば』



施策体系ごと方針

方針1 健やかな生活を守るまちづくり

①健康づくりの推進
②医療体制の充実
③地域福祉・生活福祉の充実
④児童福祉の充実

健康・福祉

⑤高齢者福祉の充実
⑥（若年）福祉の充実
⑦生活福祉の充実
⑧平和の保持と人権保護の徹底

方針2 時代を拓き次代につながるひとづくり

①幼児教育・保育の充実
②学校教育の充実
③青少年の健全育成
④生涯学習の充実

教育・人づくり

⑤スポーツ・レクリエーション環境の充実
⑥芸術文化活動の推進
⑦文化財の保護と活用
⑧地域間交流・国際交流の推進

方針3 利便性と発展性を高めるまちづくり

①適切な土地利用
②道路整備の推進
③河川整備の推進

都市基盤整備

④公共施設の整備
⑤防災・避難機能の向上

方針4 快適性と安全性を高めるまちづくり

①適切な住宅の供給
②上下水道の整備
③下水道の整備
④消防・救急体制の充実
⑤防災対策の充実

安全・コミュニティ

⑥防犯対策の充実
⑦交通安全対策の実施
⑧消費者の保護
⑨コミュニティの活性化

方針5 産業の活力を高めるまちづくり

①農林業の振興
②商業環境の充実
③工業の振興

産業・観光

④観光振興の推進
⑤産業振興の支援の充実

方針6 豊かな生活環境を守るまちづくり

①循環型社会の形成
②環境保全と環境美化の推進

環境

③環境衛生の充実

方針7 安心と信頼が寄せられる行政経営

①住民協働のまちづくりの推進
②男女共同参画社会の推進
③広報・広聴の充実

行財政運営

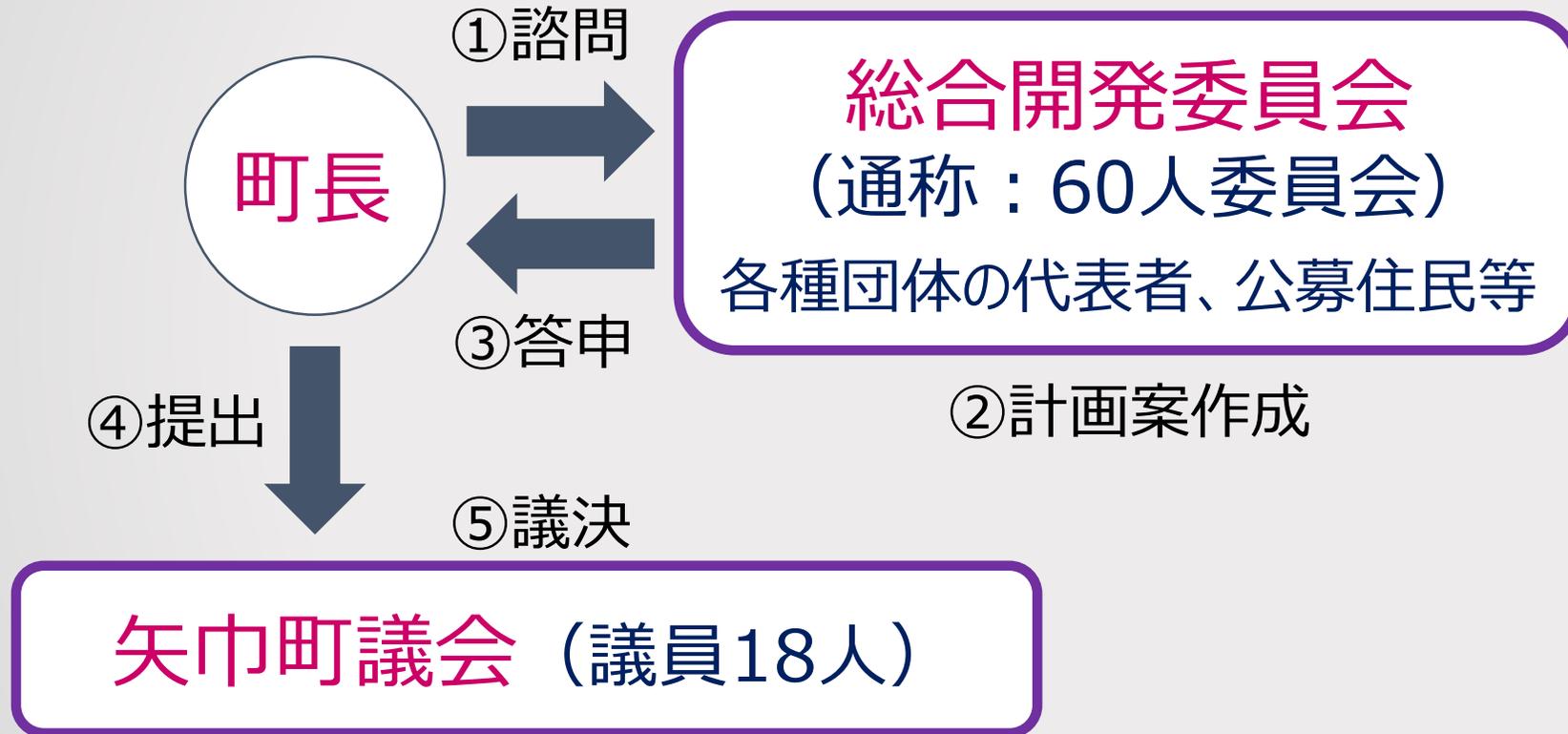
④行政経営の推進

総合計画とは

第7次矢巾町総合計画の概要（基本構想）

- ◆ **基本理念** 希望と誇りと活力にあふれ 躍動するまち やはば
- ◆ **計画期間** 2016 (平成28)～2023(令和5)年度 ※8年間
 - 前期基本計画 2016 (平成28)～2019(令和元)年度 ※4年間
 - 後期基本計画 2020 (令和2)～2023(令和5)年度 ※4年間
- ◆ **計画人口** (2016年4月 27,134人) →2023年 30,000人

総合計画の策定プロセス（矢巾町）



総合開発委員会（60人委員会）



町長から委員長へ諮問



第1回委員会
(2020.5.16)

総合開発委員会（60人委員会）

矢巾町総合開発委員会設置条例・矢巾町総合開発委員会委員選任規程より

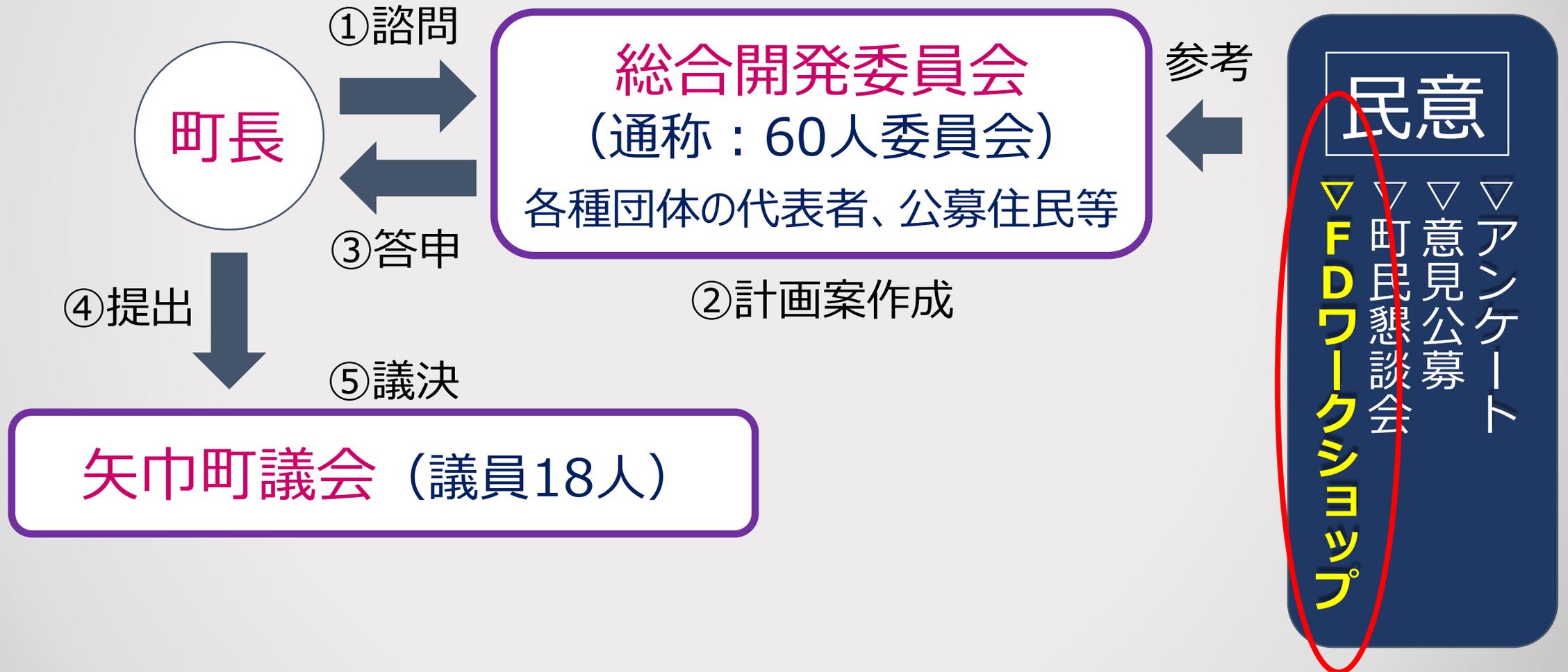
連合婦人会	3人
小中学校	6人
コミュニティ会長連絡協議会	1人
行政区長協議会	3人
公民館連絡協議会	3人
農業協同組合	1人
農協青年部	1人
老人クラブ連合会	2人

体育協会	2人
教育委員	1人
農業委員	1人
土地改良区	1人
商工会	1人
商工会青年部	1人
盛岡卸センター	1人
町内工業団地連絡協議会	2人

公民館連絡協議会推薦	6人
農業協同組合推薦	6人
連合婦人会推薦	3人
商工会推薦	3人
NPO団体推薦	1人
体育協会推薦	1人
公募委員	5人
町推薦	5人

計60人

総合計画の策定プロセス（矢巾町）



(2) フューチャー・デザインを活用した
まちづくり住民ワークショップ

まちづくり住民ワークショップ

矢巾町第7次後期総合計画（後期基本計画）の策定の参考のため、**フューチャー・デザイン**の手法を活用し、町のあるべき姿とまちづくりの方向性について、意見を出していただく。（全6回）

【開催期日】

- 第1回 6月 1日（土）
- 第2回 6月 8日（土）
- 第3回 6月22日（土）
- 第4回 7月 6日（土）
- 第5回 7月27日（土）
- 第6回 8月17日（土）

【募集方法】一般公募

町内回覧チラシ、広報紙に記事掲載、
総合開発委員・議会でのPR

【参加者】25人

20～70歳代
男性18、女性7



まちづくり住民ワークショップ

【ワークショップ各回のテーマ】

第1回 矢巾町のあゆみの振り返り①

第2回 矢巾町のあゆみの振り返り②

第3回 まちの将来像の創造（2060年頃）

第4回 将来世代からの提言①／総合計画基本構想の再点検

第5回 将来世代からの提言②

第6回 将来世代からの提言まとめ

ワークショップの開催状況



ワークショップの開催状況

【グループ討議の様子】



現代人としての討議（第1～2回）



未来人としての討議（第3～6回）

【成果物の一例】

メンバーが暮らす将来像 (2060年)

1. 将来像(2060年頃)の検討

総合計画 WS 「2060年の矢巾町」【1班】 2019.8.17 (土) 公民館大研修室

●キャッチフレーズ●
教育施設を核とした、環境を重視する住みやすい町、
そして新産業に挑戦する町

- ◇エネルギー◇
 - ・地熱発電でエネルギーが自給できている。
 - ・ガソリンを使用せず、エネルギー源が変わっている。
 - ・お金のかからないエネルギーの仕組みができています。
- ◇交通◇
 - ・交通安全を気にしないほど、運転が自動化されて、行きたいところに行ける。
- ◇仕事◇
 - ・介護などもロボットがしてくれて、手帳とかも自動化されて、本人は好きなこと、やりたいことが出来る。一アバター
 - ・農業も全自動で行なわれている。
 - ・障害者も差別無く、普通に労働することができる。
 - ・ロボットも利用した水産業が発展している。→マグロ、キャビアなど
 - ・情報産業の創出。
 - ・ハイテク農業の展開。
- ◇生活◇
 - ・社会全体が変わり、矢巾町も大きく変わっている。
 - ・お財布がいらない、手をかざすだけ、本人自身が証明書になる。
 - ・お祭りがたくさん開催されて、地域のコミュニケーションが盛んになっている。
 - ・仕事に専念しなくて良いため、自分の時間が増える。
 - ・大きな公園が整備され、水辺や樹が飛び交い四季を味わえる。そして、公園の中には、野外ステージも設置されている。
 - ・セキュリティが万全であり、防犯の心配はなくなる。
 - ・食料は自給出来ている。
 - ・広帯のIT化。
 - ・公園整備によってスポーツする環境が整備されている。
- ◇文化・芸術◇
 - ・町のいろいろなところから音楽が聞こえる。
 - ・子どもと高齢者のボランティア活動の推進。
- ◇観光◇
 - ・日本最後の町「矢巾町」一町そのものが観光スポット
 - ・町の自然風景は変わらない。
- ◇医療・福祉◇
 - ・高齢化が進み、病院というものが無くなっている。
 - ・岩手医大のリニューアルのため、移転も考え始めている。
 - ・医療機器メーカーなどが立地して、岩手医大も大きく発展している。
- ◇教育◇
 - ・基本的には自宅で学習を行い、いじめも無くなっている。
 - ・教育面では、障害者も含めて、様々な差別が無くなっている。
 - ・学校と産業が連携した「学園都市」になっている。

2. 2019年への提言(2020~23年から取り組んでほしいこと)

班	テーマ No.	施策テーマ(赤字)	重複度	施策 No.	個別施策(青字)	重複度
1班	1	学園都市を目指した町づくり	★★★	1	音楽や芸術系大学などの高等教育施設の誘致	★★
				2	更なる大学誘致(進学での選択肢がすべて町内にある)	★
				3	町でスポーツパークを育成、スポーツが苦手な子どもの底上げ	★★
				4	学校施設を利用した地域コミュニティスクールの形成	★
				5	岩手医科大学を支援する施策の実施(医療産業の振興)	★
				6	地域の教育施設と地場産業が連携	★
2	2	環境重視の住みやすい町づくり	★	1	町内の防犯情報システムの充実	★
				2	ごみ問題、資源ごみのリサイクルを推進して、新しい処理方法やエネルギー供給などの取り組みを推進	★
				3	個別の健康管理とオーダーメイド医療の推進	★
				4	最高水準の水道水の供給	★
				5	水素供給ステーションの設置	★
				6	町内の空き家の把握と対策の充実	★
				7	社会保険制度の維持	★
3	3	人とのつながりを深める町づくり	★★★	1	大きな公園で音楽祭(フェス)を開催	★★
				2	バスやスクールバスなどの移動手段整備	★
				3	町民全体が楽しめるスポーツの振興	★
				4	滞在型の観光を強く推進	★
				5	伝統芸能やお祭りなどのイベント開催にて地域コミュニティを活性化	★★
				6	男女共同参画という言葉がなくなるように、差別を無くす	★
				7	新規企業の誘致及び成長の支援(プラス音楽誘致、道の駅等)	★
				8	高齢者の生きがいづくり	★
				9	AIの活用と生産性のIT化	★
4	4	産業振興に挑戦するまちづくり	★	1	全産業に就労する外国人に対する支援と定住支援	★
				2	秋田川河川などに対応した、全年齢を対象とした就労支援	★
				3	障がい者支援の実施のみならず、就労人材としての活用を推進	★
				4	町内の衣料関係に係る産業振興	★
				5	農業へのハイテク導入に対する支援と起業する人への支援	★
				6	一農業系大学の誘致	★★
				7	ストーリー性の高い農産物産品のブランド化を推進	★★
				8	情報産業を重視した取り組み	★★



未来から2019年への提言

(3) ワークショップ結果の 総合計画への反映

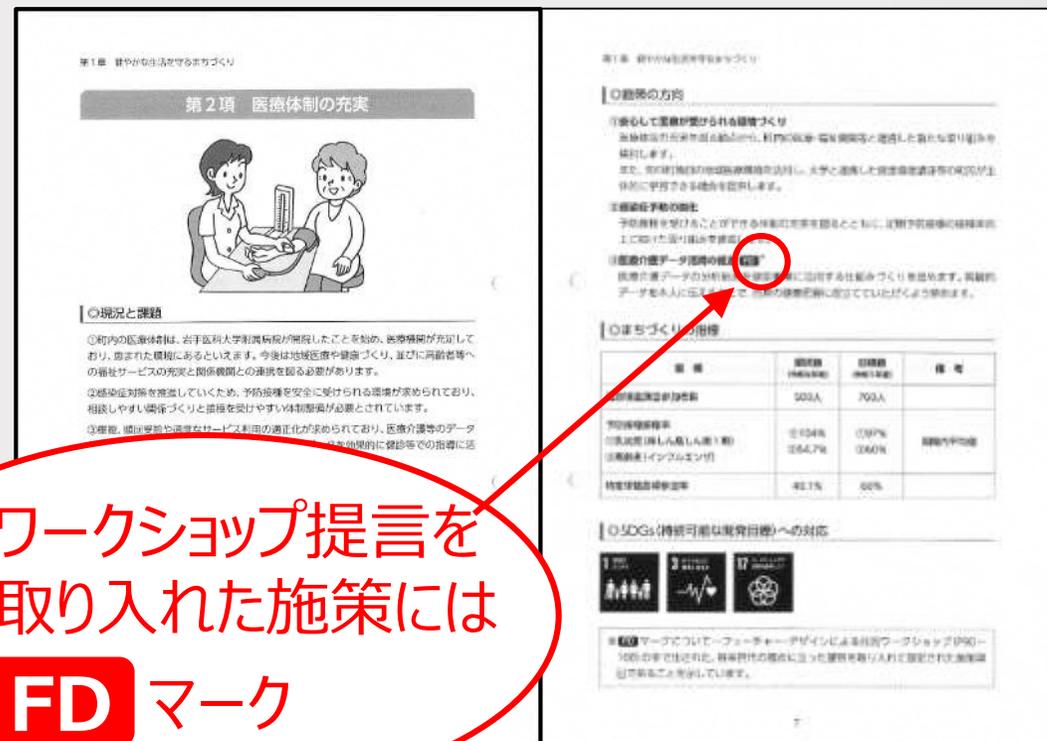
ワークショップ全110件の提言のうち、事業レベルの提言である44件を除く66件中、55件が採用され計画に反映 **(採用率83.3%)**



令和2年3月 後期基本計画の策定完了

〔表紙〕

〔本編（例）〕



※ワークショップ提言を取り入れた施策には

FD マーク

FDワークショップ提言 → 施策への反映例①

〔提言〕

南昌山の新たな魅力作りと、水辺を中心とした周辺保護やホテルの原風景を残す



自然教育を体験させる（川での魚や森での昆虫とのふれあいなどを体験）



① 新 自然との共生の推進 **FD**

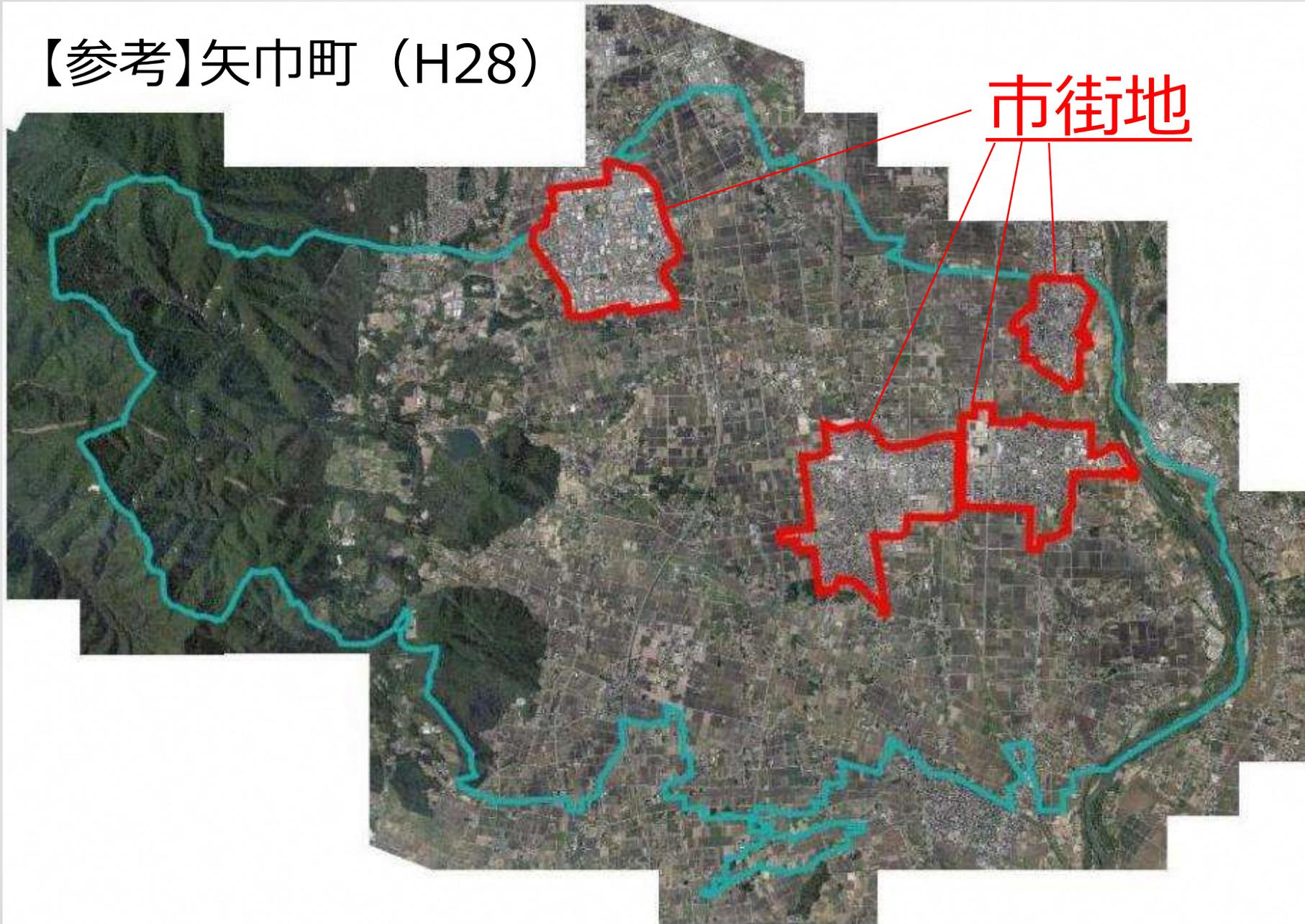
南昌山や水辺のホテルの生息域、旧稻荷街道の松並木など、後世に残すべき自然環境の保全に努め、新たなまちの魅力づくりに取り組みます。

② 新 自然に親しむ機会の増加 **FD**

自然に親しむ体験学習の機会を増やします。



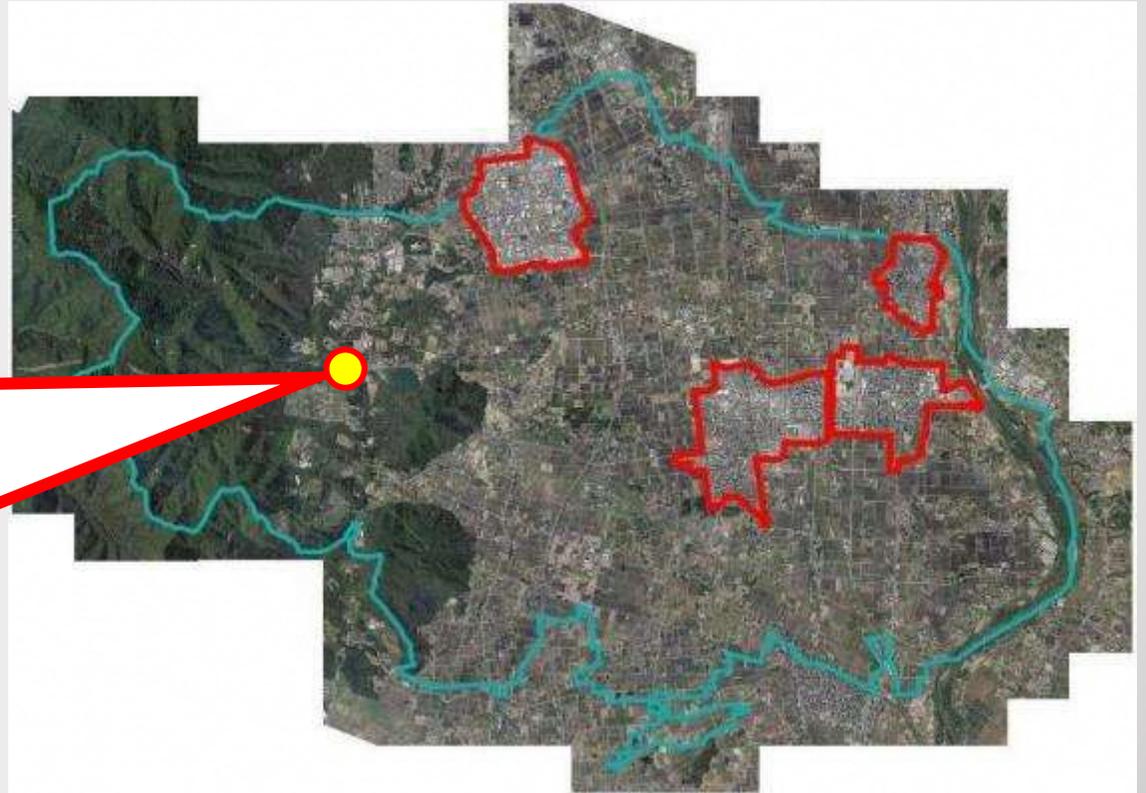
【参考】矢巾町 (H28)



FDワークショップ提言 → 施策への反映例②

【基本計画（前期）】観光施設の整備

誘客促進を図るため、魅力ある矢巾温泉郷の活性化を推進します。



FDワークショップ提言 → 施策への反映例②

【基本計画（前期）】観光施設の整備

誘客促進を図るため、魅力ある矢巾温泉郷の活性化を推進します。

↓ **だが、現実には…**

◎ 町の観光スポット「矢巾温泉」

かつては宿泊施設 4 館で栄えた秘湯。
3 館に減る中で活性化を目指したが、
客数減・老朽化・高齢化などで廃業が
相次ぎ、ついに 1 館（町営施設）に。

後期基本計画
どうする矢巾温泉？

- ・廃止？
- ・存続？
- ・再興？

FDワークショップ提言 → 施策への反映例②

〔提言〕

後期基本計画
どうする矢巾温泉？

- ・廃止？
- ・存続？
- ・再興？

廃止…
かな？

現

矢巾温泉周辺の活性化

FD

温泉を拠点としたみんなの
お祭りの開催と継続

FD

西部エリア全体を観光・
レジャーエリアに整備

FD

FDワークショップ提言 → 施策への反映例②

【基本計画（前期）】観光施設の整備

誘客促進を図るため、魅力ある矢巾温泉郷の活性化を推進します。



【基本計画（後期）】西部地区の活性化 **FD**

ひまわりパークや矢巾温泉、城内山、松並木、キャンプ場などの観光スポットを連携させ、エリア全体としての魅力を発信しながら人を呼び込む地域づくりを進めます。

(4) 総合計画策定を終えて

今回の総合計画のポイント（新しいチャレンジ）

①住民意見の聴取の範囲を拡大

従来のアンケート・投書・懇談会に加え、**ワークショップ**を実施。

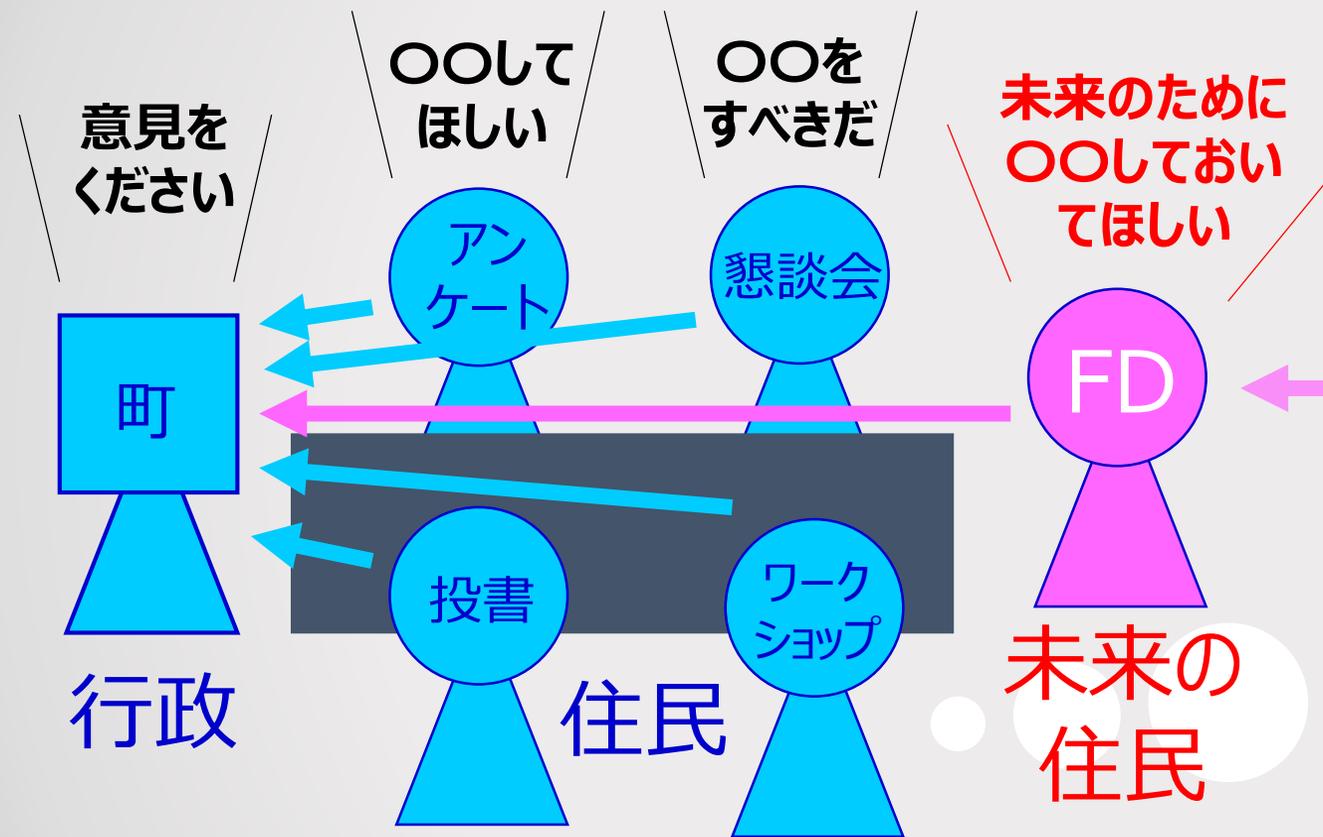
→グループワークを通じて、説得力のある意見が多く得られた。

②フューチャー・デザインの導入

ワークショップに**フューチャー・デザイン**の手法を活用した。

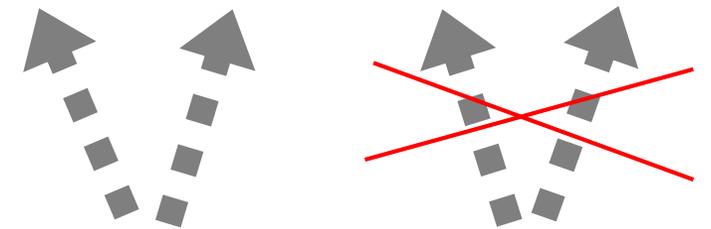
→自由な発想で、建設的な意見が多く得られた。

やりたかったこと（イメージ）

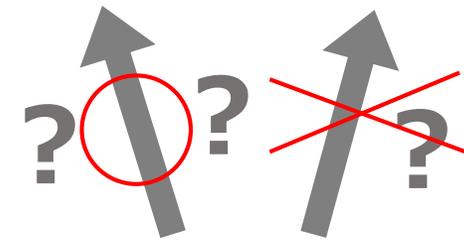


2060の矢巾町

GOOD or BAD



2023の矢巾町



総合計画

2019の矢巾町

【2019総合計画を考える会議】

フューチャー・デザインの総合計画づくりを終えて

矢巾町

「持続可能性に配慮した、
夢のある総合計画ができた」

参加者

「新鮮な経験ができた。
楽しく、やりがいがあった」

担当者

「行政と住民の相互理解・
信頼関係が深まった」

やって
よかった



また
やりたい

3. フューチャー・デザインと これからの矢巾町

今後の矢巾町の展望

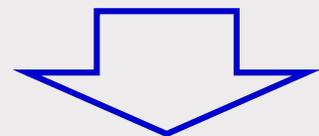
総合計画にフューチャー・デザイン推進の方針が明記

→今後4年間、様々な計画策定や事業実施に活用



フューチャー・デザイン

- F Dタウン = 「未来につよい矢巾町」をまちの強みに
- 住民協働で、将来に向け持続可能なまちづくりを展開



今後の矢巾町の展望

まち全体の将来可能性をアクティベート

||
未来まで「やさしさ」や「思いやり」にあふれた、
真に住みよい・住み続けられる矢巾町の実現へ

- ・矢巾町が住みやすいと思う人…2018年 84.2%
- ・矢巾町に住み続けたい人 … || 83.5%



ご清聴ありがとうございました